

1 派遣期日 令和元年7月30日（火）～7月31日（水）

2 研修先 会場名 日経ホール  
所在地 東京都千代田区大手町1-3-7

3 研修内容

今年度、本校では、県芸術祭に参加することが決まっており、第4学年52名全員が参加することになっていた。音楽が得意な児童もいれば、苦手な児童もいる。希望者を募って合唱団を作る訳ではないので、音楽が苦手な児童も楽しく練習するためには、どのように合唱指導をしていけばいいのか悩んでいた。

そこで、夏に行われている音楽指導法研究会主催の「夏の音楽指導セミナー2019」に参加することを決めた。今年のセミナーでは、合唱指導を中心に7つの講座が開かれていた。2学期以降に合唱指導で取り組んだ講座の内容について3つまとめる。

(1) 「笑顔いっぱい！感動いっぱい！みんなで歌うって素敵！」

講師 大阪府茨木市立茨木小学校 教諭 古宮真美子

- 授業を構成するポイント
  - ・この時間の学びは何なのか。・流れとつながり
  - ・すき間なく、段取りよく ・どうすれば面白くなるか  
→「仕掛け」たっぷり
  - ・参加率を上げて、楽しさを味わえるチャンスを増やす。（活動する楽しさ・成長を実感できる楽しさ）
- 低学年や中学年での指導において
  - ・友達とのつながり、合わせる楽しさ（拍の共有）
  - ・分かりやすく、やりやすい方法
- 効果的な合唱の練習法
  - ・口の開け方
  - ・裏声の出し方
  - ・3連符のリズムの取り方
- 学校教育での音楽だからこそ大切にしたいこと
  - ・表現する楽しさ、みんなでやる喜び、感動と達成感を「音楽」で伝え、「音楽」で鍛え、「音楽」で育てる。

(2) 「みんなが合唱が好きになる～やすしげ先生の合唱メソッド 2019～」

講師 合唱指揮者 田中安茂

- 授業を5段階に分けて考える
  - （第1段階）音楽以前の問題として授業が全く成立しない。
  - （第2段階）子どもは席に着き大人しいが、無気力
  - （第3段階）よく歌うが、意識が低く授業の流れも雑然としていて集中しない。
  - （第4段階）授業を大切に、楽しんで参加する。熱意をもって歌うが教師に頼ろうとする。
  - （第5段階）合唱に対する正しい認識をもち、積極的に参加しクラスの独自の合唱をつくろうと努力する。
- 自主性を育てる方法
  - ・興味関心をもたせる。・自信をもって声を出させる。
  - ・響きをつける。・表現力を高める。

### (3) 「行事で使える新曲&歌唱指導で役立つ魔法の言葉掛け」

講師 作曲家 弓削田健介  
音楽指導家 古川敏子

#### ○ 歌う時の指導のポイントや声掛けについて

- ・ 音程、子音、母音ができているか確認するときの言葉かけ  
「お し り ボリボリできたかな」 お…音程 し…子音 ぼ…母音
- ・ すぐに歌詞を付けて歌うのではなく、いろんな歌い方で練習してから歌詞をつけて歌う。
  - ① 歌詞をすべてリだけで歌う「リリリ唱」
  - ② 歌詞をすべてナだけで歌う「ナナナ唱」
  - ③ 歌詞を母音だけで歌う「母音唱」
  - ④ 最後に歌詞を付けて歌う「歌詞唱」
- ・ 小さなことでも、できたらほめる。1小節だけでも、できていたらほめる。  
「目を大きく開いて歌えたね」「ラの音程がきちんととれていたよ」  
「歌の出だしが揃っていたね。揃うと気持ちがいいね」
- ・ 歌うだけではなく、体を使って声を出させる。  
「声で放物線がかけるように、まず手をつけて声を出そう」
- ・ 母音の「エ」は口を横にするのではなく、縦に口を開けて「エ」と歌う。  
「えー（口は横）じゃなくてエー（口を縦に）」と教師が実際にやって見せる。

#### 4 感想

今回の研修では、音楽が苦手な児童でも楽しく歌うことができ、学年で合唱の練習を行っていく上での発声のポイントや音楽の授業の構成の仕方を学ぶことができた。

発声のポイントとしては、ただ大きく口を開けるというだけではなく、口を縦に開けることを意識させることが大事だということが分かった。裏声の出し方では、「頭の上から声を出すように」と伝えていたが、古宮先生は怪獣や狼の遠吠えのイラストを使い、声を出させるとイメージが付きやすいと話していた。「狼の遠吠えのように声を出してみよう」と、実際に合唱指導でこのイラストを使いながら声を出させたら、すぐポイントを掴み、裏声を出せる児童が増えた。イラストや物を使いながらイメージをもたせることの大切さが感じられた。

授業の構成の仕方では、子供たちの実態を把握し、音楽の授業の中で自主性を育てることを行う重要性も分かった。リズム遊びや言葉遊びを通して、子供たち同士がコミュニケーションをとって、音楽の楽しさや友達と触れ合う心地よさなど経験させることができることも分かった。子供たちが充実した音楽の授業を過ごせるように、田中先生の技やメソッドを身に付けて授業に取り入れていきたいと思った。

このセミナーでは、どの講師方も楽しさが伝わる講義だった。講義を聴くだけではなく、実際に楽譜を見て歌ったり、リズム打ちをしたりする機会が多くあった。初見で取り組む難しさを感じながらいたが、講師の先生の言葉かけでできている気持ちになり、楽しい時間に変わってきた。講座に参加していた方は音楽専科の先生方が多かったが、一緒に声を出す、音楽を奏でるって楽しいなという気持ちになった。苦手な子供の気持ちを考えると、できなくて苦痛な時間を過ごすことがないようにしたいと思った。そのためには、前向きな言葉かけが大事だと気付いた。「小さなことでも、できたらほめる」ということを意識して、2学期から合唱指導を行おうと思った。このセミナーを受けて感じた「指導者が楽しく、明るい雰囲気を作れば、どの子供にも音楽は楽しい時間になっていく」ということを他の担任にも伝えていきたい。

#### 参考文献

『夏の音楽指導セミナー2019 研究資料』音楽指導法研究会

『みんなが音楽を好きになる！やすしげ先生の楽しい合唱メソッド』田中安茂著 音楽之友社